

# 絆きずな

【kizuna】

ぐんま人権情報誌【春夏号】

# VOL.16

2015

特集

「人権文化の創造」に向けて



集合、人権擁護委員さん

## 目次

### 巻頭言

人権文化の定着をめざして

～人権擁護委員の活動～

群馬県人権擁護委員連合会 会長 今橋 憲雄 2・3

人権文化の創造をめざす児童生徒の活動

人権教育研究指定校の取り組み

渋川市立赤城北中学校、みどり市立笠懸小学校

研究実践地区の取り組み

片品村、片品村立片品中学校、片品小学校、

片品南小学校、武尊根小学校

4・5

### 寄稿

遊びの中で育つ人権感覚

前橋市児童文化センター 館長 塩崎 政江

6

### 地域の活動

中之条町人権ミニフェスティバルの開催

7

### 地域の活動

人権演劇フェスティバル

人権啓発教材の紹介

あとがき

8



# 巻頭言

## 人権文化の定着をめざして ～人権擁護委員の活動～



群馬県人権擁護委員連合会  
会長 今橋 憲雄

「みんなで築こう人権の世紀」「考えよう相手の気持ち」「育てよう思いやりの心」を重点目標に掲げて、人権尊重思想の普及高揚のため人権擁護活動に取り組んできたところですが、しかし、いまだに、物質的な豊かさの追求に重き、心の豊かさが大切にされない風潮、あるいは、他人への思いやりの心が希薄で、自己の権利のみを主張する傾向が見受けられます。このような状況が、様々な人権侵害を発生させる大きな要因の一つとなっています。そして、子どものいじめや体罰、児童虐待・児童買春などの問題に対し、群馬県と教育委員会並びに法務省が連携して、その任にあたっております。また、各市町村教育委員会、小中学校の公立・私立の校長先生には、特に人権の花運動、人権教室、人権講話、人権作文への参加、デートDV教室の開催や、いじめ対策緊急メッセージの配布等多くの諸行事に、御理解と御協力を賜り厚く感謝とお礼を申し上げます。

高齢者への身体的、心理的虐待、男女差別、配偶者等からの暴力・性的被害などの被害からの救済を

### 人権擁護委員とは？

人権擁護委員は、法務大臣が委嘱した民間の人たちです。この制度は、様々な分野の人たちが、地域の中で人権思想を広め、住民の人権が侵害されないように配慮し、人権を擁護していくことが望ましいという考えから設けられました。

人権擁護委員の主な活動は3つ。

1. 地域の皆さんからの人権相談に応じ、問題解決のお手伝いをします。
2. 法務局の職員と協力して人権侵害による被害者を救済します。
3. 地域の皆さんが人権について関心を持ってもらえるような啓発活動を行います。

現在、260余名の人権擁護委員が群馬県内の各市町村に配置され、積極的な活動を行っています。

通じて、群馬県と協力して男女共同参画社会の実現を目指しています。

また、インターネットを悪用した人権問題、北朝鮮当局による拉致問題の解決、東日本大震災に起因する人権問題、そして、いわれなき差別をなくし、すべての人々が、人間としての尊厳を保障された生活を送られますよう切に願うものであります。

先日、小学校を訪問しての朝礼ミニ講話において、いじめられたことのある人や友達がいじめられているのを見たことのある人は、正直に率直に手を挙げて下さいと尋ねると、6割強の子どもたちが手を挙げますし、その時私は、後方にいる先生方の眼を見ます。驚きの瞳の奥に、慈愛あふれた視線を感じます。やがて校門から出るとき一礼して帰りますが、この学校もすばらしい学校に違いないと確認し、うれしく思います。



いじめ防止をテーマにした人権教室

人権作文につきましては、毎年6月から各地区の教育事務所並びに教育委員会を通じて県内すべての中学校に参加依頼をしております。純粋で感受性豊かな世代に、人権感覚や知覚を身につけていただ

くことを目的に取り組んでおります。今年の県内中学校の参加校数は123校であり、総数15203点の作品が集まりました。その内訳はいじめをテーマにした作品が47%、高齢者・障害者関係が12%、平和をテーマにしたのが8%、環境・自然災害関係が6%などでした。どの作品からも、他人を思いやる優しい気持ちが見て取れました。さらに、ご家庭の暖かく和やかなうちに子育てが育まれている様子を垣間見ることができ、とても素晴らしい作品ばかりでした。

人権教室につきましては、県内8協議会の子ども委員の皆さんが、紙芝居や寸劇、読み聞かせや手話などを小学校の各学年に応じた授業を展開しております。その準備として、6月から教材・資料の選択、授業案の作成と工夫、学校との事前の打合せ、委員の役割分担、ふれ合い交流の内容、読み聞かせの練習、そして本番の授業と、子ども委員の皆さんが力を合わせ「命の大切さや、みんな仲よくしよう」と人権週間に向けて11月上旬からその授業に取り組んでおります。

昨年から新たに「企業」への訪問を行っております。私達の目的は、企業と連携して人権意識を広めていくこと、また、企業人としての立派な倫理観を持てるエキスパートを育てるお手伝いをすることを主眼に据えております。また、地域社会からの信頼を得るために、最も重要な人権に配慮して行動を行うことが責務であると考えています。ある企業では、170人の従業員を、3年目までの各年ごと、5年目及び10年目の班別に分科会を設定して、毎月朝礼の時間を利用して、人権についてのレポートを提出するなどして話し合いをした結果、気がつく遅刻もなくなり、朝夕のあいさつを励行する会社になりましたとのことでした。また他の会社に私達の広告依頼を申しあげたところ、御快諾をいただき、時折新聞に大きく掲載されておりますことに、是れもまた、一同感謝に堪えません。

誰もが生き生きと働くことができ良好な生活環境が築かれ一人一人が人権の意識を高め、それがその人にとって新しい価値の創造を作り、相互理解による助け合いの共生心が生まれる。自己の命を愛し同様に他者の命の価値を認める。その考え方を広く

県民に伝えたい。そして、人権文化の定着を願うものであります。

人権擁護委員は、あなたの街の相談パートナーです。

○人権相談ダイヤル(全国共通ナビダイヤル)  
0570-003-110

○子どもの人権110番(全国共通フリーダイヤル)  
0120-007-110

○女性の人権ホットライン(全国共通ナビダイヤル)  
0570-070-810

○インターネット人権相談  
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>



小学校での人権集会

### 紹介・・・今橋会長

「困っている人を見ればどんなことでも心を繋ぐ人情和尚あり。子供や保護者の相談にのり、うつに苦しむ村人を見守り、罪を犯した人と農業で汗を流す。群馬県利根郡昭和村の曹洞宗川龍寺の今橋憲雄住職は様々な救済活動に全力を注いでいる。困っている人がいれば、必ず手を差し伸べる人情住職だ。」とある雑誌に紹介されていました。平成26年度より群馬県人権擁護委員連合会の会長として、会の発展や人権啓発活動の推進に尽力されています。

### 表紙について

人権擁護委員は県内各地で人権啓発活動に積極的に取り組んでいます。11月に中之条町で開催された人権ミニフェスティバルにも大勢の人権擁護委員さんが参加し、運営や啓発に活躍しました。フェスティバルに参加した北毛地域の人権擁護委員さんが、人権まもるくん、人権あゆみちゃんと記念撮影をしました。



# 児童・生徒の指導をとおして人権文化の創造を図る

## 人権教育研究指定校の研究

### 「みんなの絆を深め、いじめのない学校をつくる満点運動」

渋川市立赤城北中学校

赤城北中学校は、平成25年度から2年間、文部科学省の人権教育研究推進事業の指定校となりました。いじめの対応、学校での人権教育の推進方策を再検証する気運が高まる昨今、本校では子どもの人権を中心に実践研究を進めました。「いじめをしないさせない、いじめを許さない認めない」ことからスタートし、「居場所づくり」「絆」をテーマとして、実践研究を深めてきました。

人権に関わるすべての取組を「満点運動」として位置づけ、校長の取組である「心の満点運動」を中心に、道徳部会、特別活動部会、教育相談部会の三部に分か

れ「満点運動」に取り組みました。心の満点運動では、心を耕すことを目的とした校長講話と地域や家庭に指導方針や取組の周知を目的とした学校だよりの発行に取り組みました。道徳部会では、いじめをテーマに道徳の時間の質的向上のために授業研究を重ねました。

特別活動部会は、学級活動と生徒会活動を中心に、「居場所づくり」と「絆」をテーマに満点運動を展開しました。教育相談部会は、「心のケア」をテーマに生徒の心に寄り添う指導に取り組みました。

笑顔が溢れ、明日も登校したくなる魅力ある学校づくりの基礎・土台は紛れもなく人権教育です。今後も

「満点運動」を推進することにより、よりよい学校づくりに邁進していきたいと思います。



### 「温かく楽しい学校を目指して」

みどり市立笠懸小学校

笠懸小学校は、平成26年度から2年間、文部科学省より「人権教育研究」の指定を受けました。めまぐるしく移り変わる世界情勢や国内状況を見るにつけ、今こそ「21世紀は人権の世紀」という合言葉の実現に向けて学校現場でも努力したいと考えます。今年度は校内研修主題を「思いやる心をもち、協力して学びとる児童の育成」とし、全教育活動において自他の尊重や望ましい人間関係づくり、互いに高め合おうとする児童の育成をめざして尽力してきました。全部を紹介することはできませんが、その活動は児童・保護者・教職員・地域住民を巻き込む、きめ細かいものとなっています。

ここで平成24年度から実施しているJRC委員会の「復興のひまわり～みんなで続けよう未来の種プロジェクト～」を紹介します。東日本大震災の被災地から譲り受けた2粒の種に込められた「思い」を受け止め、児童は各学級で大切に育てました。「花が育つのと同時にみんなの心の中にある思いやりの種も育つといいなと思います(6年生)」こんな感想がたくさん見られまし

た。保護者や他校への配付はもちろん、今年度は笠懸地区でひまわり畑を運営している方々にも2万5千粒贈呈しました。来年度は「復興のひまわりパート4」を実施します。「心の土壌を耕す学校・児童が児童を育てる学校・人権感覚にあふれた町」づくりをめざして子どもたちと頑張ります。

(写真は、「花は咲く」の全校1,000人の合唱の様子。JRC委員が手話でリード。その他、研究内容の詳細は本校のHPをご覧ください。)



## 人権教育地域指定校の研究

### 利根郡片品村

片品村は、文部科学省より人権教育総合推進地域の研究指定を受け、平成24年度から3年間、人権教育・啓発の推進に取り組んできました。広く村民全体を対象とした啓発活動と、村内小中学校4校が、各学校毎に研究主題を設定し、学校の特色を活かした人権教育を実践してきました。

学校・家庭・地域が連携して、人権文化の創造に取り組んだ実践を紹介します。



### 豊かな人権感覚を磨き、生徒が主体的に活動する学校

片品中学校

本校は、「豊かな人権感覚に基づいた実践力の育成」を研究主題に据え、学校・家庭・地域の特色を踏まえた取組を通して人権教育を推進しています。

人権だよりの発行や各月毎の生活目標設定等のこれまでの取組に加え、本年度は、「道徳授業の充実」や「生徒主体の活動の推進」を重点として、「人権感覚を磨き、偏見をもたず公正・公平にふるまい、差別

をしないよりよい人間関係を主体的につくろうとする生徒の育成」を目指しています。



### 自他のよさを認め合える児童の育成

片品南小学校

本校は全校で34名の学校で、きめ細かに指導をしています。授業では、自分の考えをもち、相手の考えを聞いて、よりよい意見になるように工夫しています。児童が少ないので、特に低学年では先生のかかわり方がとても重要な役割を果たします。

授業以外では、よりよい人間関係をつくるために、「なかよし読書」「遊び集会」「なかよし給食」「昔の遊び集会」「ここにこ集会」などで、異学年交流を取り入れて

してきました。また、教師も研鑽を重ね、人権感覚を磨くことで、お互いのよさを認め合える児童の育成を図っています。



### 人権尊重の精神を育む活動の充実

片品小学校

本校は、「自他の大切さに気づき、思いやりをもって他者とかかわる児童の育成」を研究主題とし、道徳の時間を中心として、計画的に他者に関わる場面を設定しています。道徳では、役割演技や動作化を積極的に取り入れることにより、人物の置かれている状況や友達の言動がどう感じられるかなどを考えさせるようにしてきました。また、年5回の「お弁当の日」における学年間の交流や、「ドッジビー」「長縄跳び」「マラソン」などの団活動における異学年交流を充実させることで、他者の感じ方や考え方を認め合い、表現できる温かい人間関係を育てています。



### 地域の特色を活かした体験活動を通して

武尊根小学校

本校は、「自他のよさを認め合い、助け合う心豊かな児童の育成」を研究主題に設定して、学校・家庭・地域が協力して体験活動を通して人権教育を推進しています。

家庭や地域と協力して、運動会や特別養護老人ホームとの交流会を始めいろいろな体験活動を実施したり、総合的な学習の時間に講師をしていただいたり

して、地域のいろいろな方々との触れ合いの中で、よりよい人間関係づくりを学び、人権感覚を育てています。





# 遊びの中で育つ人権感覚

前橋市児童文化センター 館長 塩崎 政江



一人で、人形を抱いてお母さんになったつもりで遊んでいる3歳児。「おやつにしましょう、はいリング!」と言うと、近くで同じように遊んでいる幼児が「はい、バナナを食べてね!」とまねる。そのうちに、二人は目を合わせてニコッ。

一人で遊ぶより、友達と一緒にの方が楽しいということ、遊びを通して感じていきます。はじめから「大勢で遊びましょう」「みんなで一緒に」では、自ら友達にかかわろうとする気持ちは育ちにくいものです。主体的にかかわることで相手のよさを感じてほしいと思います。子どもはもともと『人』が好きな存在なのですから。



冒険遊び場

4歳児の二人が秘密基地を作っている。そこへ「まぜて」と三人目が来る。でも、二人は「だめよ」と断る。近くに

いる大人は、「そんなこと言っちゃだめでしょう。仲良く遊ぶのよ」と言いたくなる。でも、後から来た幼児が「じゃあ、いつになったらまぜてくれるの?」と聞くと、「合い言葉が決まったらね」。そうか、二人だけの秘密の言葉を決めていたのか…。

「どんなときでも仲間ははずれにしない」と強制してしまったら、形だけの『仲間』になってしまうでしょう。子どもは、自分の思いを出すと、その後は、相手の思いも受け入れていけるよ



交通学習ゾーン

うになるものだと思います。

ボール遊びをしている5歳児が、ボールの取りっこになる。「ずるいよ、ぼく1回もとってない」「なんだよ、しょうがないだろう」「だって、ぼくだって投げたいよ」と言い合いに。でも、双方とも本音が言い合えると、「じゃあ、1回交代にしよう」と二人で決める。納得した時の二人のうれしそうな顔。以前よりも仲良しになっていく。



冒険遊び場

けんかを一度もしたことがない子は、仲直りをしたことがない子でもある」と考えると、幼児が言い合いをしながら育っていくことの大切さを感じられます。

大人は「けんかはしてはいけない」「けんかは悪いこと」と言いがちですが、「けんかをした子は仲直りの喜びも体験できる」「けんかを一度もしたことがない子は、仲直りをしたことがない子でもある」と考えると、幼児が言い合いをしながら育っていくことの大切さを感じられます。

幼児期は、遊びを通して、人とかわることの楽しさやすばらしさを感じていきます。友達が自分と同じことを感じているとわかったときの喜びや、自分の違いに気付いたときの葛藤など、心を揺り動かす体験をたくさんしています。何度もうまいかない体験をし、でも、一緒に遊びたいから、みんなが気持ちよく過ごせるようなかかわり方を考えます。

主体的な遊びは、人を大切にすることを育んでいきます。それは、まさに人権感覚の芽生えと言えるでしょう。



どろだんご

塩崎政江さんは、県内幼稚園・小学校の教師・園長・校長、県教育委員会や幼児教育センター等を歴任し、平成24年度から前橋市児童文化センターの館長として、たくさんの事業を企画・実施しています。(平成26年度現在) 前橋市児童文化センターは、「学び」と「遊び」の活動交流拠点として、子どもたちの夢を育て可能性を広げる総合文化施設です。子どもたちにとって、様々な体験ができる場であり、多世代の人と交流できる場となっています。

# ～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～ 中之条町で人権ミニフェスティバルを開催しました

中之条町と北毛地域人権啓発活動ネットワーク協議会では、11月30日に人権ミニフェスティバルを開催しました。パイテック文化ホールを会場に、盲導犬とのふれあいや群馬県アイバンクへのドナー登録、人権パネル展示・啓発物品配布・特設相談所の開設など、人権に関するブースが開設されました。



人権まるくん、あゆみちゃんと握手する参加者

展示に加えて各ブースでは、温かい汁物、シクラメン、コーヒー豆、手づくり雑貨等の販売も行われました。

他にもバルーンアート教室、輪投げにチャレンジなどや、豪華賞品があたるスタンプラリーも実施されました。

また、映画「かかしの旅」鑑賞会が開かれました。この映画は、幼い頃の事故が原因で右足が不自由となり「かかし」と呼ばれ、いじめられている少年が家出をする。その中で出会った仲間達との交流を通じて成長していく姿を描いたヒューマンドラマで、いじめ問題をテーマに、生きることの意味を全国に問いかけてきた映画です。

## 参加者の声

子どもと一緒に楽しく参加できました。人権意識は人との触れ合いの中で高められるのだと感じました。

盲導犬についての話を聞き、盲導犬を育てることがとても大変なことが分かりました。そして、私たちみんなが盲導犬のことをよく知らないと、盲導犬が役割を果たせないで困ることがあることも分かりました。(30代女性)

## 主催者からのメッセージ ～ミニフェスティバルをとおして～

映画の鑑賞や障がいのある人たちとのかわりをおして、相手の気持ちを考え、思いやりの心を育てる機会にしたいと考えました。

他人の幸せを共に喜び合える人権尊重の社会づくりを、みんなで進めていきましょう。



ブースでの物品販売

いじめは、いじめられる側はもちろん、いじめる側の者にも心に傷が残ります。そして、みんなに思いやりの心がなくては、悲惨ないじめがなくなりません。

人権問題は、自分と関わりがなければその重要性が理解されないものです。このフェスティバルが、多くの人に、相手の気持ちを考え思いやりの心を育てる場となったものと思います。

(中之条町住民福祉課 湯本)



盲導犬についての説明を傾聴する



## 人権演劇フェスティバル 2月8日 安中市文化センター

県内中・高等学校演劇部が人権をテーマとした演劇を上演し、人権について楽しみながら身近に考えてもらう機会を提供しました。

今回は、新島学園中学校、群馬県立前橋西高等学校、群馬県立伊勢崎高等学校の演劇部が出演し、それぞれが熱い舞台を展開しました。

### 新島学園中学校 演目「河童」



突然、河童の姿に変わってしまった仲間みんなに優しく接してあげようと努めるが、河童となった現実が壁や差別心を作り、彼女を人間の言葉が話せない本当の河童へと変えてしまう作品です。

### 前橋西高等学校 演目「COURAGE」



青春時代には、ふとした心の行き違いで友達との関係がぎくしゃくし、時にはいじめに発展してしまうことがある。素直に自分の気持ちを相手に伝えることの難しさや大切さが表現されている作品です。

### 伊勢崎高等学校 演目「暗鬼」



多重人格(解離性同一性障害)というミステリー的な要素を含んだ作品です。人を信じることで、疑うことが交錯する中で、人を信じることの難しさとともに、信じ合えることのうれしさが伝わってきます。

### 人権の視点から

河童の姿でも友達は友達だという考えは分かるが、緑色のぬるぬるしたうろこの肌、手には水かき、魚の臭いがる現実の姿は受け容れがたいものがある。本音と建前を問われるものです。COURAGEからは、人は他人のことは客観的な判断ができるが、いざ自分に関わる問題となると主観的になる。これが人権問題の本質でしょうか。自分を客観的に見る態度や、他の人からのアドバイスを受け容れる心のゆとりと、勇気をもって行動することが、自分も相手も幸せにするものです。暗鬼では、多様性を理解することの大切さに触れています。例えば、性同一性障害という心と体の性が一致しない人たちが、まわりの人から理解されないで苦しむことが問題となっています。人間の多様性を認め、個人として尊重することの大切さに気づかされます。

## 人権啓発教材の紹介

人権アーカイブ・シリーズ

(企画 法務省人権擁護局他)

「同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～」(61分)

「同和問題 ～未来に向けて～」(19分)

この教材は、我が国固有の人権問題である同和問題の解決に向けたDVDです。

人権教育・啓発担当者向けと一般市民対象の2つの内容が収められています。同和問題の本質等について関係者の証言や解説を中心に簡潔にまとめられています。

ご利用ください。

問合せ先 群馬県人権男女共同参画課 TEL 027-226-2906



### あとがき

今回は人権文化の創造という、少し大きなテーマを特集しました。地域や学校での人権教育・啓発活動それぞれの場で、多くの方々が一生懸命取り組んでいる姿が見られました。こうした努力が人権という文化をこの群馬県に定着していくものだと実感しました。(ま)

絆 きずな  
[Kizuna]

ぐんま人権情報誌【春夏号】

VOL.16  
2015

●発行/群馬県人権男女共同参画課  
〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号  
TEL.027-226-2906(直通) FAX.027-220-4424